



水土里情報を災害復旧事業に活用した事例について紹介します。

(1/2)

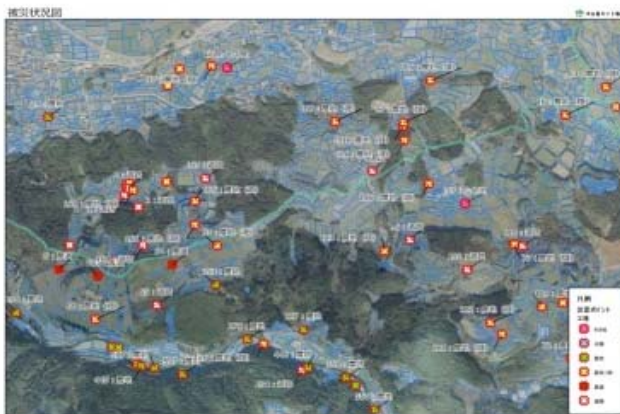
今回紹介する団体: 水土里ネット福岡、八女市、うきは市

取組概要

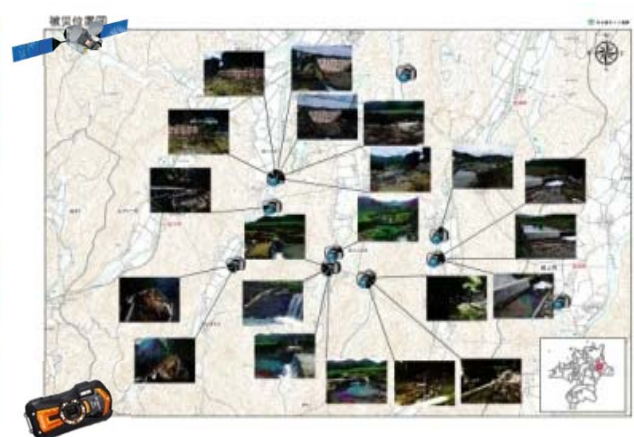
内容: 平成24年7月の九州北部豪雨災害が発生した際に、水土里情報利活用促進事業で整備済みのオルソ画像、1/2,500地形図及び農地筆図に加えて、GPS付カメラ等を活用し、被災箇所的位置図作成と写真整理を行い関係機関と情報を共有。

また、水土里情報を活用し、現地調査及び査定結果の整理のほか、査定後の補助率増高申請まで実施できるよう電子化。

- 経緯: ①平成24年7月: 集中豪雨の、被災箇所が多い八女市、うきは市(約500~1,000箇所)に対し県土連からGISを活用した整備手法を提案。市から協力要請を受け支援開始。
- ②平成24年8月: 水土里情報(オルソ画像、地形図)とGISソフトをインストールしたPC及びGPS付きカメラを貸し出し。また、容易に位置図作成が行えるよう簡易GISアプリを開発し、作成方法を指導。被災地の位置図を、全てGISデータ化し、農地・農業用施設別に整理。
- ③農地・農業用施設毎の受益図を作成。
- ④農地筆図と農業委員会が所有する農地情報とを突合し、位置図と災害関係者情報とをリンクさせ地権者及び耕作者情報を把握。
- ⑤整備した情報を活用し、補助率増高申請書類を作成する予定。



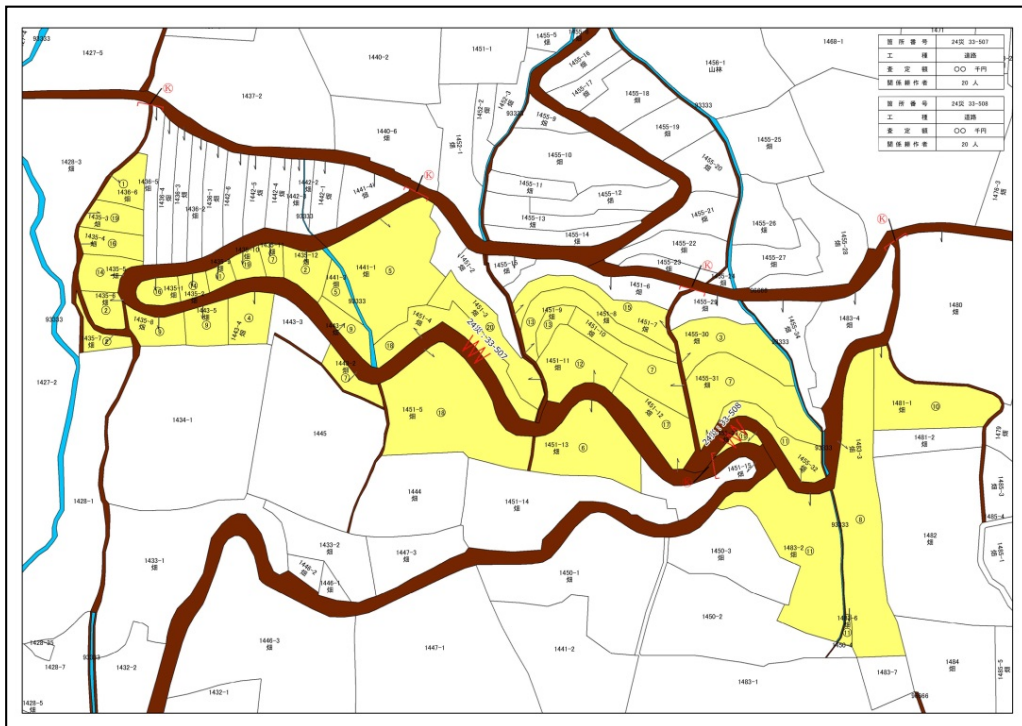
農地・農業用施設別の災害位置図



写真整理(GPSカメラで撮影)

期待される効果

- ①災害が発生した場合は、農地、農業用施設の被災箇所及び状況等を早期に把握することが重要である。早い段階で位置図を作成することで、正確な位置情報を把握でき、関連情報を共有することで、再調査時や情報整理等の作業を効率的に実施できる。また、GPS付きカメラを使用することで、被災箇所別の写真整理が軽減できる。(特に災害箇所が多い場合に有効。)
- ②災害情報のGIS化により、集計作業と位置図・字切図作成等の作業をリンクして行うことができるため、迅速な対応が可能となる。また、電子データであるため、当該年以前の災害情報の照会なども容易に行なえ、業務の効率化に繋がる。(過年度の災害情報のデータは入力済み)



字切図

今後の活用予定

事業で整備したデジタルオルソ画像及び農地筆・耕区図等を有効活用し、災害発生後、迅速な対応が可能となるような災害支援手法を構築し水土里情報システムの利用促進を図る予定。

■お問い合わせ先

福岡県土地改良事業団体連合会 総務部情報管理課

092-642-1893

農林水産省農村振興局整備部設計課計画調整室(横田、柳川)

03-6744-2201(直通)